

ヘンデル、唯一無二の宗教音楽にして至高のオラトリオ

早くからその才能が認められ、国際的に活躍していたヘンデル。豪胆な偉丈夫は作曲・演奏者に留まらず、劇場運営にかかる世俗的な様々な困難と闘い続けました。老境に差し掛かり、経済・肉体・精神的に疲弊していたヘンデルの起死回生となった契機がこの「メサイア」です。55歳の彼はこの大曲を24日間で作曲し、上演されると大成功を収めました。また、この「メサイア」を上演した翌日この世を去り（享年74）、彼が耳にした最後の音楽となりました。彼の名声は生前・没後のみならず今日に至るまで色褪せることはありません。

浜松バッハ研究会・豊橋バッハアンサンブルは主にバッハを中心に演奏してまいりましたが、今回は浜松バッハ研究会創立40周年及び豊橋バッハアンサンブル創立30周年を記念して、3度目の「メサイア」を取り上げることにいたしました。聖書の言葉をドラマチックに表現する「メサイア」の音楽を聴衆の皆さまと享受できたら幸いです。

浜松バッハ研究会・豊橋バッハアンサンブル 会員一同



三澤 洋史（みさわ ひろふみ）指揮者・合唱指揮者・作曲家

国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。指揮を山田一雄、ハンス＝マルティン・ラーベンシュタインに師事。

1999年から5年間、「パイロイト音楽祭」で、祝祭合唱団指導スタッフの一員として従事。2011年には、文化庁在外研修員として、ミラノ・スカラ座においてスカラ座合唱団の音楽作りを研修。

2001年より現在まで合唱指揮者を務めている新国立劇場合唱団を世界のトップレベルにまで鍛え上げた。2017年 JASRAC 音楽文化賞を受賞。新国立劇場合唱団は、2018年度第31回ミュージック・ベンクラブ音楽賞クラシック部門、室内楽合唱部門受賞。愛知祝祭管弦楽団音楽監督として、今日まで、ワーグナー作曲「ローエングリン」、「トリスタンとイゾルデ」、「ニーベルングの指環」全4部作、「バルジファル」を上演。「名古屋音楽ベンクラブ賞」を受賞。作曲家として、ミュージカル「おにころ」、「愛はてしなく」、「ナディース」、Missa pro Pace（平和のためのミサ）がある。バッハに傾倒し、東京バロック・スコラーズの音楽監督として、沢山の演奏会を指揮。「モテット集」のCDはレコード芸術で準特選に選ばれた。

今年(2024年)7月20日、イタリアのアッシジの聖フランシスコ聖堂にて、自作の宗教曲だけで演奏会を開いた。そのためにアッシジ祝祭合唱団を結成。洗礼名は聖フランシスコ。

著書に「オペラ座のお仕事」（早川書房）、「ちょっと お話していいですか」（ドン・ボスコ社）がある。京都ヴェルディ協会理事、日本ワーグナー協会評議員。



飯田 みち代（いいた みちよ）ソプラノ

ソプラノ歌手。日本国内では、日生劇場と東京二期会周年記念オペラ「ルル」「メデア」「アイナグマル」、びわ湖ホール周年記念オペラ「死の都」、サントリーホール周年記念オペラ「バシス大襲撃」など日本を代表する劇場の記念公演の数々に主演し、高い評価を受け公演の芸術大賞受賞に寄与。批評家たちにより、「音楽の友」誌上で世界のディーヴァベスト100に選ばれ、「陰陽自在な発声で多層の女性像を魅力的に描き出す驚くべき才能」（音楽現代誌）と絶賛された。海外でも演奏の評価が高く、イタリア、アメリカ、ドイツ、オーストリア、フランス、ハンガリーに何度もソリストとして招聘されている。京都大学卒業、愛知県芸術選奨受賞他受賞多数、春日井市広報大使。



三輪 陽子（みわ ようこ）メゾソプラノ

愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。同大学院音楽研究科声楽専攻修了。第5回国際ワーグナー歌唱コンクール派遣対象者国内オーディション最優秀賞と特別賞を受賞。平成20年度新進芸術家海外派遣制度在外研修員としてイタリアとオーストリアに留学。新国立劇場オペラ公演、同劇場の鑑賞教室に出演。宗教曲ではヘンデル「メサイア」、モーツァルト「戴冠ミサ」、「ハ短調ミサ」、「レクイエム」、バッハ「ヨハネ受難曲」、「マタイ受難曲」、ヴェルディ「レクイエム」などアルトソロとして出演。クオアチア、ウィーン、ベルリン、チェコにて海外公演に出演。二期会会員。



畑 儀文（はた よしふみ）テノール

大阪音楽大学大学院修了。1991年オランダ・アムステルダムにおいて、バロック歌手として高名なマックス・ファン・エグモント氏のもとで研鑽を積む。以後オランダ各地に於いて毎年受難週にはエヴァンゲリストとして招かれ、ドイツ、オーストリア等ヨーロッパ各地に於けるリサイタルでも大きな反響を呼んでいる。日本コロムビアより「日本のうた」、シューベルト歌曲集「美しき水車小屋の娘」などのCDをリリース。1979~2007年「大阪文化祭本賞」や「ブルーメロ音楽賞」、「兵庫県文化賞」など数々の賞を受賞。田原祥一郎、マックス・ファン・エグモント、ヘルマン・クリスティアン・ポルスターの各氏に師事。関西フィルハーモニー合唱団コアマイスター、大阪バッハ合唱団音楽監督、西宮中央合唱団、ゲーテコア、宝塚混声合唱団、カレッジ神戸ヴォーカルアンサンブル、バッハアンサンブル名古屋各指揮者。丹波の森国際音楽祭シューベルトティアデーたんば音楽監督。京都女子大学非常勤講師。



加藤 宏隆（かとう ひろたか）バス

袋井市出身。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。ジョンズ・ホプキンス大学ピーボディ音楽院修士課程、及びインディアナ大学ジェイコブズ音楽院ディプロマ課程修了。帰国後は東京二期会や日生劇場などのオペラに多数出演。東京・春・音楽祭ではソリストとしてリッカルド・ムーティ氏と共演。2023年12月読売日本交響楽団「第九」ではバスのソロを務めた。またバッハ・コレギウム・ジャパン声楽メンバーとして国内外の演奏会への参加等、宗教音楽の分野での活躍も目立つ。二期会会員。



楢山 久美（すぎやま くみ）コンサートマスター

浜松市出身。東京芸術大学附属音楽高校、東京芸術大学、同大学院、ウィーン国立音楽大学に学ぶ。ウィーン国立音大ソリストコンクール審査員全員一致の第一位受賞、ウィーン楽友協会大ホールにコンチェルトデビュー。ヴァツラフ・フムル国際コンクール（H・シェリング記念）第二位。第67回日本音楽コンクール「コンクール委員会特別賞」。平成13年「静岡県文化奨励賞」、「浜松市ゆかりの芸術家顕彰」受賞。その薫り高く洗練された表現力による演奏活動は、音楽の友、音楽芸術などの音楽誌に常に高い評価を得ており、リリースCDは特選盤、準特選盤、推薦盤となっている。元東京芸術大学附属音楽高校講師。現在浜松学芸高校講師。



松野 美樹（まつの はるき）トランペット首席

東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。以来、フリーのトランペット奏者として、ソロ、国内外のオーケストラ、室内楽、吹奏楽等で活躍する。特に、バロック音楽の分野において、ピッコロトランペット、バロックトランペットのソリスト、及び客演第一奏者として活躍。国内だけでなく2012年より2016年まで、毎年渡独し、各地の古楽オーケストラとバッハ「ロ短調ミサ」「クリスマス・オラトリオ」「マニフィカト」のソロパート及びトゥッティパート、トレッリの協奏曲などを共演する。現在までにトランペットを北村源三、田中昭高氏に師事、バロックトランペットをフリーデマン・インマー氏に師事。また、小林道夫氏にバロック音楽などの教えを受ける。現在名古屋芸術大学非常勤講師（古楽器）。



内山 美穂（うちやま みほ）オルガン

広島エリザベト音楽大学パイプオルガンコース修士課程修了。ベルギー王立音楽院ブリュッセル校およびオランダ王立音楽院マスターヒトリ校プルミエリ取得後卒業。ベルギーを代表する作曲家兼オルガニストのF・ペータース氏に師事。1984年ヴァン・国際オルガンコンクール最高位受賞。1992~1997年イタリアミラノ近郊アレゼのMaria aiuto dei cristiani教会のオルガニストを務める。日本オルガニスト協会会員。カトリック鷲の宮教会オルガニスト。浜松聖星高等学校宗教科非常勤講師。

浜松バッハ研究会・豊橋バッハアンサンブル

バッハ生誕300周年の1985年に浜松地域のバッハ愛好家によって創立された合唱団と管弦楽団であり、姉妹団体・豊橋バッハアンサンブル(1994年創立)と共に「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「ミサ曲ロ短調」などの大作や「クリスマス・オラトリオ」「カンタータ」「モテット」などを取り上げ上演してきた。1990年以來バッハ演奏の權威である新国立劇場の三澤洋史氏を常任指揮者として招いている。2000~2001年にはバッハ緑の地を巡るドイツ演奏旅行を実施。バッハの聖地であるライブツィヒの聖トーマス教会やヘンデルが少年時代に学んだハレのマルクト教会などで演奏し、大好評を得た。

〜 浜松バッハ研究会管弦楽団 〜

ヴァイオリン-I:	楢山 久美	木内麻希子	長谷川 悠	前澤 陽	松嶋 朗生	オーボエ:	大橋 弥生	樽林 淳
ヴァイオリン-II:	小沢 規子	田邑 利香	東儀 温	疋田 清香	松嶋 多恵	ファゴット:	曾布川利貞	高木 麻衣
ヴィオラ:	櫻井 彩花	小林 勝	小林はる奈	篠田 侑香		トランペット:	松野 美樹	池田英三子
チェロ:	神農 清志	立川 訓子	西村美菜子			ティンパニ:	今泉 好雅	
コントラバス:	田邑 元一					オルガン:	内山 美穂	